

35 北海道大学における高気圧酸素治療のコスト問題

石川勝清¹⁾ 遠田麻美¹⁾ 岡本花織¹⁾
 佐々木亮¹⁾ 太田 稔¹⁾ 加藤伸彦¹⁾
 伊藤亮子²⁾ 敦賀健吉²⁾ 石川太郎²⁾
 橋本聡一²⁾ 森本裕二²⁾

- 〔 1) 北海道大学病院ME機器管理センター
 2) 北海道大学病院麻酔科 〕

【はじめに】現在、診療報酬の改定を主とした医療制度改革により、病院経営が厳しい状況下において、高気圧酸素治療においても保険点数が低く採算が取れないなどの理由により、装置の撤去を行なう等の施設も少なくない。今回、北海道大学病院におけるコスト面から高気圧酸素治療室の運営状況をH19年度の実績を元に報告する。

【方法】H19年度の延治療回数1071回のうち、救急適応203回、非救急適応844回であった。北大病院はDPCを導入しているため入院患者の非救急点は包括されてしまうが、通院されて治療を受けた患者382回分とスポーツ医学等の自費診療分を収入と計算して初診料等は省略した。支出分はメンテナンス代、ガス代、動力費を計算してその他備品代等は省略した。

【結果】収入分として救急適応分1218万円、非救急適応分(通院)84万円、スポーツ医学等の自費診療分30万円。支出分としてメンテナンス代670万円、動力源としての酸素・窒素代556万円、電気代15万円となった。差引きは91万円の黒字となった。

【考察】北大病院では、医師は麻酔科ペインチーム業務の一環として、操作担当CEはMEセンター業務の一環として現在4名のCEがローテーションを組んで行っており、HBO専属の人員費が不要な事で赤字は回避されている。又、病院からは一度も撤収の話は出ていない。収入面では救急適応・スポーツ医学等の患者さんを増やす事が収入増への課題である。

【結語】第2種装置が総合病院で生き延びる最も重要な因子として人員費の工夫が挙げられるのではないかと。

36 高気圧酸素治療における臨床工学技士養成校の臨床実習受入と当院の指導概要について

長谷川清純¹⁾ 坂入 好¹⁾ 小松達也¹⁾
 滝田千寿¹⁾ 須田仁美¹⁾ 金子貞男²⁾
 徳田耕一²⁾ 山内良司³⁾

- 〔 1) 特定医療法人 柏葉脳神経外科病院 臨床工学科
 2) 特定医療法人 柏葉脳神経外科病院 脳神経外科
 3) 北海道ハイテクノロジー専門学校 〕

北海道内における臨床工学技士養成学校は平成19年4月から、4校に増え、毎年190名の学生が入学している。それに比例して、病院施設に対する臨床実習生の受け入れへの協力依頼も増加してきているものと思われる。

高気圧酸素治療(以下HBO)業務実習もカリキュラムに含まれている。当院は平成13年度から20年度までの8年間に、北海道ハイテクノロジー専門学校(以下養成校)の実習生39名を受け入れてきた。

実習生への指導経験から学生のHBOに対する関心度と北海道内のHBO業務実習の受け入れ状況を知ることが出来た。当院が経験してきたHBO業務実習の概要と問題点を報告する。